

<ストーリー1>

「本音を話してもいいんだ」と初めて思えた日～質問力が引き出した、止まっていた気持ち～

歯科衛生士の佐藤さん(仮称)は、面談の日が正直気が重かった。

「また評価の話かな」

「何ができていないと言われるんだろうな」

そんな思いで、キャリアコンサルとの個別面談に座った。

ところが、最初に投げかけられたのは意外な質問だった。

「最近、仕事の中で“ちょっと嬉しかったこと”ってありますか？」

一瞬戸惑いながらも、佐藤さんは少し考えて答えた。

「患者さんに“話を聞いてもらえて安心した”って言われたことです」

そこから会話は、評価でも指示でもなく、**佐藤さん自身の気持ち**に焦点が当たっていった。

「その時、どんな関わり方をしていましたか？」

「逆に、やりづらいつとを感じる場面は？」

気づけば、普段は口にしない不安や違和感を、自然に話していた。

「カウンセリングツール、正直使いづらい部分があつて…」

「自費の説明、患者さんの反応が怖くなることもあるんです」

キャリアコンサルは否定せず、整理しながら言葉を返してくれた。

「佐藤さんは“売る”より、“納得してもらいたい”気持ちが強いんですね」

その一言で、胸の奥がスツとした。

「そうか、私が止まっていた理由はそこだったんだ」

面談後、佐藤さんは初めて思った。

「改善って、やらされるものじゃなくて、自分の気持ちから始めていいんだ」と…。

(終)